

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201064		
法人名	社会福祉法人 伸康会		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	〒036-8381 青森県弘前市独狐字石田172-1		
自己評価作成日	平成30年9月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域、家族とのかかわりを大切にします ・安心して暮らせるよう、一人一人に寄り添います</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年10月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は理念を日々意識ながら入居者の尊厳と意向を大切にしながら支援を行っている。外部研修参加や内部研修など法人全体で行っており職員の技術や資質向上に努めている。地域との交流では中学生の訪問、ボランティアなどの受け入れも行っている。地域で行われる敬老会などにも参加し、外出できる機会を増やし楽しみが見出せるよう支援し、孤立する事なくそれぞれ馴染みの関係が継続出来る様に心がけている。職員は入居者、家族の意見や要望を汲み取る様心掛け、家族の面会時には状況報告し、必要な時は電話での報告をし迅速かつ適正に対応する様にしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し、職員内で共有している。	玄関、各ユニットのホールに掲示しいつでも理念を確認出来る様にしている。また、グループホームに新しく働く職員にも理念についても説明され共通理解を図れる様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学生の慰問や、ボランティアを募り受け入れている。地域の敬老会に参加するなど、交流も図っている。	隣接する法人の事業所に訪問等があるときは、見学や交流の為参加し、また、デイサービスの利用者が面会に来たり、こちらから出向いたりもしている。地域の中学生のボランティアの受け入れや、地域開催の敬老会にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を実施し、内容についてはご家族がいつでも閲覧できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設から入居者の生活状況、介護保険制度の報告、町会長・包括からの地域情報、行政からの制度利用について、ご家族からの意見要望を踏まえサービス提供している。	定期的開催されており、入居者の方の生活状況やグループホームでの行事の報告をし、参加者の方々からも意見や要望を確認しサービス提供されている。会議内容は全職員にも確認出来る様にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護、事故報告その他の行政利用について密に報告、相談している。	運営推進会議の他、市役所職員や地域包括支援センターへ直接出向いたり密な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル確認の研修を定期的実施し、理解を深めている。3か月に一度の身体拘束廃止委員会を開催し、入居者の状況について話し合い、身体拘束は行っていない。	マニュアルも作成されており法人全体で内部研修が計画され3ヶ月に1度勉強会を開催し、身体拘束についても理解を深めている。新しい職員にも身体拘束についての説明をしており、職員みんなで身体拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人のマニュアルを確認しながら、接遇や高齢者虐待防止の研修を行い、職員内で周知するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んだことを、内部研修や月例会議で報告しあい、周知できる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には運営規定と重要事項説明書の内容を細かくお伝えし、理解・納得を確認している。制度改正時は書面にて家族への理解、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時のコミュニケーションや聞き取り、アンケートを行い、運営に反映させている。	意見箱の設置もされており面会時に職員が家族との会話で要望、意見を聞き入れる様にしている。さらにアンケートを行い自由に要望を聞き入れる事が出来る様働きかけている。来れない家族には郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議、月例会議、法人による定期ヒアリングにて、職員の意見や要望などを吸い上げて、業務改善につなげている。	ケース会議や法人の定期ヒアリングなどで職員からの意見や要望を聞き、それを業務改善につなげている。また、法人の理事長とはホームページにて職員が自由に相談できるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に沿って人事考課を実施し、チャレンジ制度など登用制度を設け、職場環境の整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人より研修案内を通知している。学んだことは内部の勉強会で報告し、職員間で共有している。また毎月内部研修を実施し、法人マニュアルや介護技術についての研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会や外部の研修に参加して、他施設の良い点などを取り入れ、サービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直後に関しては、個別ノートにて生活状況やニーズ把握している。職員間でも情報共有を徹底している。入居者の状態確認の際などに、ご本人・ご家族との面談の時間を取り、ご本人の気持ちの理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や申し込み、契約の際など、ご家族との面談の時間を設けている。課題やニーズを聞き取り、現状を把握している。不安な思いを理解して解決し、支援するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望が支援になるかもあわせて、見極めするようにしている。困っていること事や、必要としているサービスは何かを聞き取り、最適なサービス提供ができるように、施設見学と、ご家族への説明対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動等の役割を担っていただいている。また、裁縫等ご本人が得意なものは教えていただきながら、密なコミュニケーションを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日ごろのご本人の状態を伝え、問題点等を相談している。ご家族からも、差し入れや必要物品の用意、受診や外出などの協力をしていただき、離れて暮らしていてもお互いの関係が良好であるように、話し合いながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や、お気に入りの床屋、昔の友達がいる所に出かけるなど、要望に合わせて援助している。	今までのかかりつけ医や馴染みの床屋に出掛けるよう支援されている。また、家族と墓参りや外出する機会もあり、家族や本人の希望に合わせて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の生活を尊重しながらも、レク活動やおやつ作りなど、共同して円滑に進められるように支援している。関係性が悪くなった場合は速やかに仲介し、仲良く暮らせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、他施設への仲介や併設施設への面会、病院への見舞等を行い、ご本人やご家族が安心されるような支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の細かな要望について、できる事は速やかに実施している。聞き取り困難な場合は、表情や態度で推測し、必要であればご家族にも相談しながら判断している。内容については、日誌等で職員間でも共有している。	いつも関わっている職員が、入居者の表情や言動や日常のコミュニケーションの中で本人の要望を聞き入れるよう支援されている。困難な方は、家族にも協力してもらい思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅で使用していた茶わんや湯飲み、はし等、入所時に持参していただくよう案内している。家具や写真、アルバムなども持ち込みいただけるよう配慮している。またセンター方式も活用し、生活歴を確認ながら進めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設が家であることを前提として、規則正しく生活を送っていただくようにしているが、本人の希望やADLに合わせながら声かけをおこない援助し過ごし方についても記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて現状を確認し、ご本人やご家族の要望、職員の意見、医師の判断などを取り入れながら話し合い、よりよいケアができるように考えて作成している。	家族にサービス計画作成者から報告し、本人や家族の意向を聞き会議のなかで職員と話し合いながら良いサービスに繋げる様にされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の援助記録を作成し、携わるスタッフ全員が確認しながら日々のケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行政手続きの代行、各種支払いについて、制度の相談等、ご家族や本人ができない状態の利用者様に対して可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉体験で地元中学生の受け入れ、地域のお祭りや地元の敬老会など、地域との関わりを持ちながら楽しめるよう、できるかぎり参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診では、顔なじみの医師が日々の変化を見逃さないように診てくれている。その他の受診については、家族かヘルパー対応で、書面にて病状や生活状況を報告し、対応していただいている。	本人が今までのかかりつけ医で受診できるよう支援されている。受診は家族が対応しているが、困難な方は協力医に診てもらっている。また、協力医の往診もあり家族は安心されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急を要する場合は、併設施設の看護師が対応し、協力医と連携をとるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーや看護師と密に連絡を取り、現状を把握して対応している。普段から入退所の際のお付き合いもあり、連携は取れている。退院後の受け入れに関しても、病院任せにせず法人内事業所の案内も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時の説明として、重度化した場合については、同法人の老健への入所や病院への入院など、ご本人やご家族の要望と照らし合わせて案内していることをお伝えしている。	入居前の契約時に家族と本人に説明して同意を得ている。重度化された時は、家族と相談したり医療連携室の方と相談し支援されている。法人本部の入居やその他の事業所などの案内をされており、家族や本人が安心出来る支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故については、内部研修にてマニュアルを確認している。個々の急変時については、指示書にて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施して、手順を確認しながら行っている。また職員や入所者の防災についての意識を高めている。	年に2回防災訓練を実施されている。設備会社の設備点検も定期的に行われ不備がない様になっている。非常食も法人で完備されており夜間想定での訓練も行い記録にまとめている。	今後火災訓練以外で地震想定などの訓練も行い緊急時に対応出来る体制を整え、設備会社の点検もあるため、機械の取り扱いについても確認し、誰でも使用出来る事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮し、入浴の個人対応や、排泄介助ではさりげない声がけなどに注意している。また、接遇研修を行い、プライバシー保護にも配慮している。	プライバシーについての勉強会を行っており、職員一人一人が入居者の方への言葉遣いに配慮し支援を行っている。日々の支援で気になる事や言動に関しては、その都度職員に声がけし、説明して入居者の人格を尊重されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気づくりを心掛け、遠慮なく自由に希望や意見を言えるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望や体調に合わせて、できる限り自由に過ごしてもらえるように、本人のペースを守って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や染髪は本人の希望に沿って行っている。化粧品の購入、髭剃りの補助についても支援を行なっている。洋服の購入についても支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立で、行事食も提供している。主に片付けなどは、役割として一緒に行っている。個人の、嗜好による代替食にも対応している。	年に2回外食をする計画を立て行っている。また、日々の食事支援では一緒におやつ作りをしたり、出来る範囲でお手伝いしてもらう楽しみを増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量は、チェックして体調管理に役立てている。入所時の聞き取りで、アレルギーや好き嫌いも確認し、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分でできるかたは自分で、介助が必要な方は手伝いながら実施できている。入れ歯の消毒も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて回数等を把握し、定時やタイミングを見てトイレ誘導を行い、個別の支援をしている。	排泄チェック表を付け、その方にあった声掛けや対応で排泄誘導を行っている。また、下剤については協力医に相談し、指示を貰う事もあり排泄に関しては個々にあった支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と適度な運動を推進している。朝食前の水分補給は牛乳にしたり、午前午後2回、体操を取り入れて身体を動かす支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴予定はあるが、本人の意向や体調に合わせて変更するなど、臨機応変に対応、支援している。	週2回の入浴日以外でも本人や家族の希望に合わせて支援されている。また、入浴できない方には足浴や清拭等を行い清潔保持を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や休息のタイミングなど、個人の生活リズムに合わせて声かけを行い、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は個人の服薬説明書を確認し、変更等にも注意している。服薬内容の理解にも努め、適切に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や好みを把握し、レクや軽作業での活躍の場面設定している。日常生活での役割を担ってもらうことで、張り合いや喜びを持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として、買物や遠足などの外出の機会を設けている。本人の希望があれば、ご家族とも相談の上、自宅への一時帰宅や外泊、買物等に行けるよう支援している。	年間行事で買い物や遠足などの外出以外でも天候をみて散歩に出掛けたり、家族の協力を得て外出の機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得た上で、財布を管理している方もいる。自己管理が難しい方でも、買物時には自分で支払うことができるよう付き添いで支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、施設の電話を使って電話することができる。電話ができない方は、職員が代わりにかけることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を意識した飾りつけ、室内の温度調整、テレビの音量、職員の立てる物音、声の大きさにも気をつけている。	ユニットごとに季節が感じられる物を一緒に作り飾っている。それぞれの空間にあった環境作りがされている。ホールにはエアコンが設置されその日の温度や湿度を確認し、調整されている。居室に閉じこもらないように支援し、自由にホールで過ごせる空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分によって一人で過ごしたり、仲の良い方同士江会話を楽しめるような座席、ソファの配置にしている。入居者の状況に合わせて配置換えも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	申し込み時や契約時に、自宅で使用していた家具や小物など、持参いただいてもいいことを本ににや家族にお伝えしている。また、本人の希望や生活状況に合わせて、自宅から持ってきていただいている。	入居前に自宅で使用されていた馴染みの物や、家具や生活用品を持ち込み安心して生活できるよう工夫されている。家具などの配置も考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、ベッドやテーブル、イスの高さ調節など、安全で過ごしやすいように工夫している。居室やトイレがわかる張り紙等で、わかりやすく生活しやすい環境を整えている。		